



石田與之助氏 勲四等に叙せられる



石田與之助氏

技術部化学課

元地質調査所技術部化学課長の石田與之助さんが 昭和50年秋の叙勲で勲四等瑞宝章を授与され 11月13日に伝達式が行なわれました。心からお祝いを申しあげます。

石田さんは大正8年2月 農商務省東京工業試験場に奉職され 第5部長山崎甚五郎博士(のち山梨高工初代校長)のもとで電解法による水酸化ナトリウムの製造と粘土からアルミニウムの製造に関する研究開発に参加されました。大正14年4月 山梨高等工業学校に移られ学生の教育指導にあたられるとともに 水晶中の微量成分の化学的研究および めのうの熱変化に関する研究に従事され その研究成果の一部は めのうの着色法として今日も広く利用されています。

昭和13年9月 商工省鉱山局地質調査所に入所され 時局の要請で行なわれた 各種鉱物資源の開発調査の分析部門を担当して きわめて多くの試料を迅速・正確に分析されるとともに 鉱産物分析協議会の分析法制定に際して 信頼度の高いデータを提供され これらの事業推進に大きな役割を果たされています。

昭和17年6月 海軍省囑託として南方鉱産資源調査団に参加され セレベス島マカツサルに分析所を開設され 南方各地の調査団の採取した多数の試料の分析により

調査団の活動に大きな貢献をされました。

昭和18年8月から30年8月まで約12年間 幅広い知識とすぐれた指導性で課員を指導され 従来からの調査研究業務を積極的に推進されるとともに 山形県大泉鉱山を手はじめとして 銅・鉛・亜鉛・石膏・マンガン・ウラン・金・銀などの各種鉱床を対象として 金属鉱床の地球化学探査方法とその適応性の研究を行なわれ 福島県与内畑鉱山 山口県桜郷鉱山などで潜在鉱床を発見され 新探査技術として有効であることを立証されました。また 地化学探鉱法の研究成果を本所出版物・学会等により発表されたり 直接鉱山会社に技術指導されたりして 多くの功績を残されています。

昭和30年に化学課長に就任されてから 昭和41年辞職されるまで約10年間 化学部門の責任者として後進の指導と育成にあたられるとともに 新分析法の開発と機器分析法の研究を指導推進されました。とくにウラン鉱石・トリウム鉱石の湿式分析法 透過型蛍光光度計による微量ウランの分析法 蛍光X線によるトリウム分析法の開発は わが国の核原料資源の調査研究に非常に貢献しております。なお この期間に日本工業標準調査会臨時委員として 日本工業規格の鉱石分析法作成に尽力されました。

以上石田さんの業績の一端を述べましたが 石田さんは温厚なお人柄で化学課をまとめて 地化学探鉱・核原料探査などの諸方面で地質調査所の活動に貢献されたことは大きな功績と考えられます。

石田さんは受賞後数年ぶりで化学課に見えましたが その時のお話では 退職後は好きな盆栽の手入れなどをされるとともに 趣味の一つとして着色困難な素材の着色方法を研究されており 完成に近いとのことでした。

今回の受賞に重ねてお祝いを申し上げますとともに ご健康をお祈りいたします。なお 御住所はつぎのとおりです。

茅ヶ崎市中海岸4丁目2-75 (電話 0467-82-3369)

